

世界経済の潮流 2013年

< 2013年上半期 世界経済報告 >

成長力回復への課題 (概要)

2013年6月

内閣府
経済財政分析・海外担当

ねらい

- 依然として弱い回復が続いているが、13年に入り一部の国では底堅さがみられ始めるなど、各国・地域間ではばらつきがみられる世界経済について、各国・地域の景気の現状や今後の見通しについて考察。
 - アメリカ: 所得環境や雇用の回復が継続し、消費は緩やかに増加するなど、景気は緩やかな回復が続く。
 - アジア: 中国は依然として拡大テンポが緩やかな状況が継続。
 - ヨーロッパ: 金融市場に落ち着きがみられ、一部には下げ止まりの兆しもみられるが全体としては弱い動き。
- また、主要国の世界金融危機後の成長率低下の原因を探るとともに、成長力強化のためのカギとなるイノベーション創出の取組を概観する。

第1章 各国・地域の動向

第1節 世界経済の概観

第2節 アメリカ経済

第3節 アジア経済

第4節 ヨーロッパ経済

第2章 先進国を中心とする成長力の変化と展望

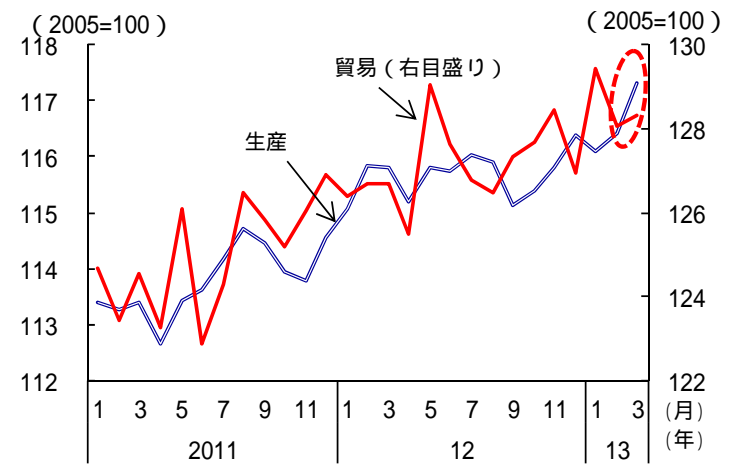
第1節 世界金融危機後の成長構造の変化

第2節 各国のイノベーションをめぐる状況とその創出の条件

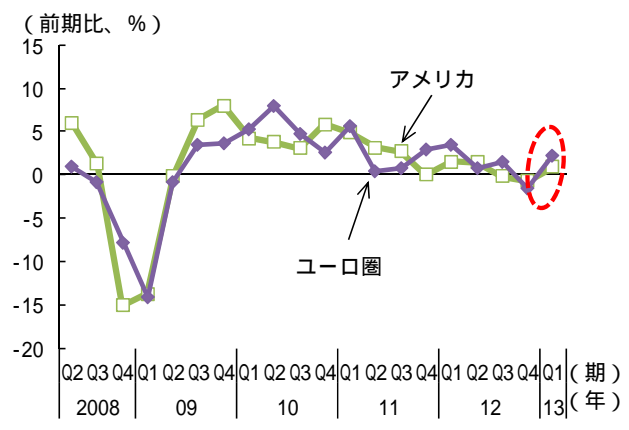
第3節 まとめ

- 世界経済は、全体として弱い回復が続く中、一部では底堅い動きも。ただし、各国・地域間でばらつきも。
(第1～2図)
- 外需：先進国ではアメリカが底堅い動き、新興国では中国を除き低い伸びが続く。(第3図)
- 内需：消費は、アメリカは緩やかに増加、新興国は総じて堅調。投資は、アメリカでは増加傾向だがそれ以外
は動きにばらつき。(第4図)

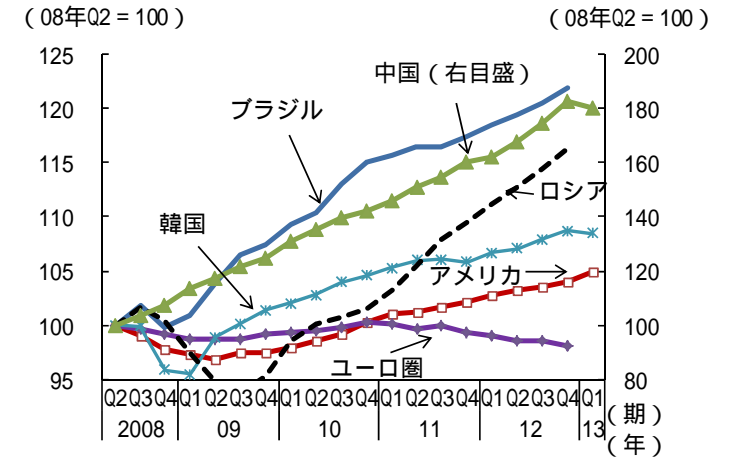
第1図 世界の生産・輸出動向



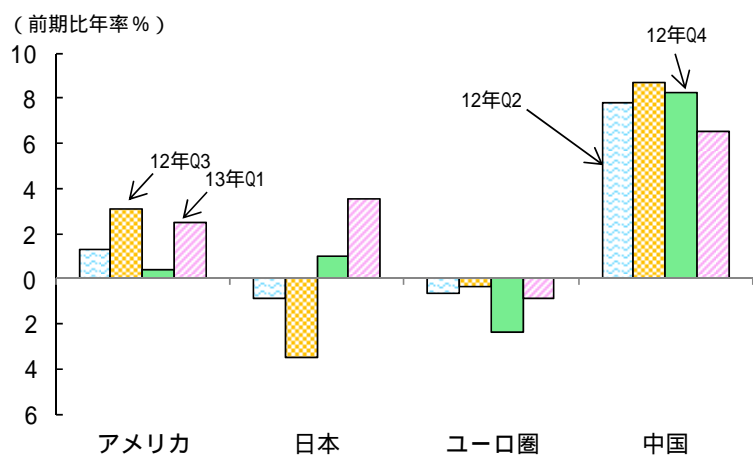
第3図 主要国の輸出の動向 (1)先進国



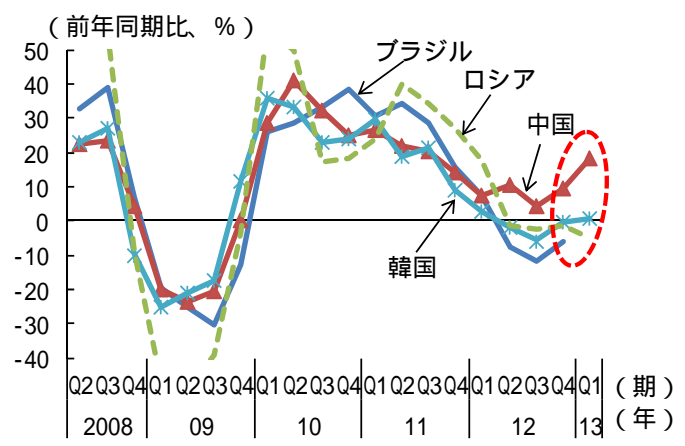
第4図 主要国の内需の動向 (1)個人消費



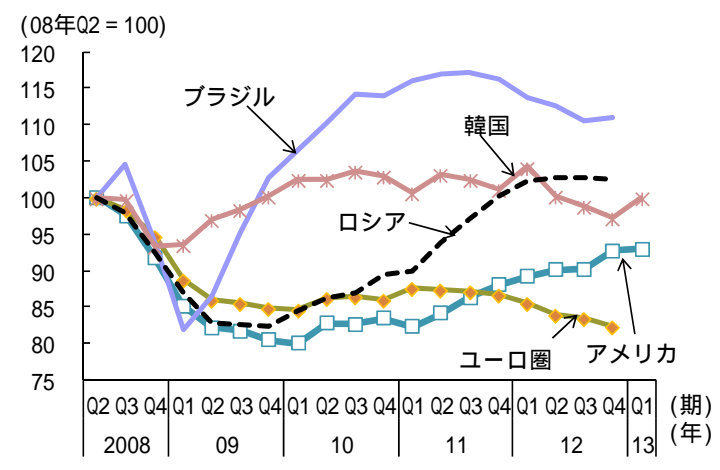
第2図 主要各国の実質GDP成長率の推移



(2)新興国等

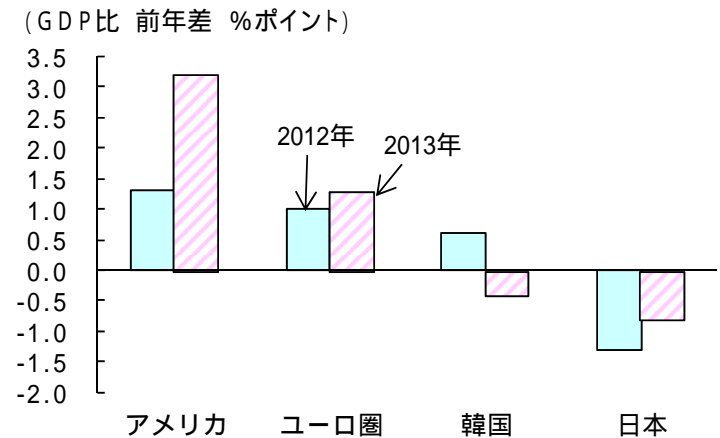


(2)固定資産投資

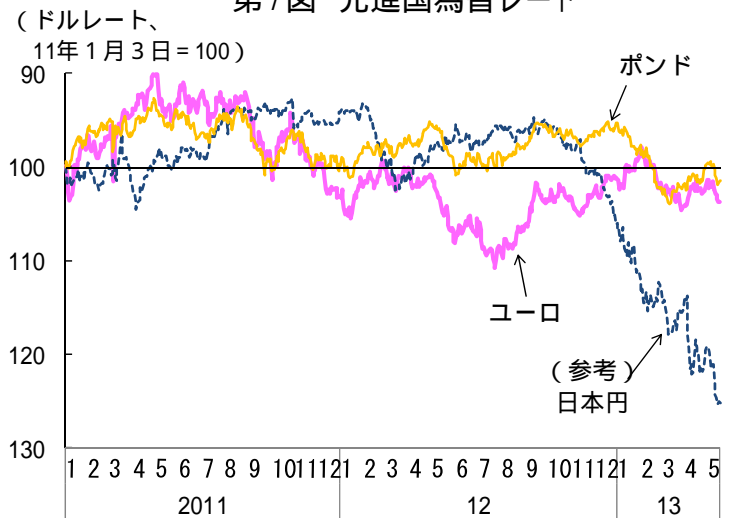


- 多くの先進国は、世界金融危機後悪化した財政の再建途上。ただし、財政再建のペースは国によって違いも。(第5図)
- 12年以降、先進国新興国共に一層の金融緩和。金融資本市場は落ち着くも、先進国・新興国間で株価の動きに差。(第6～第8図)

第5図 主要先進国の構造的収支(一般政府)の改善幅

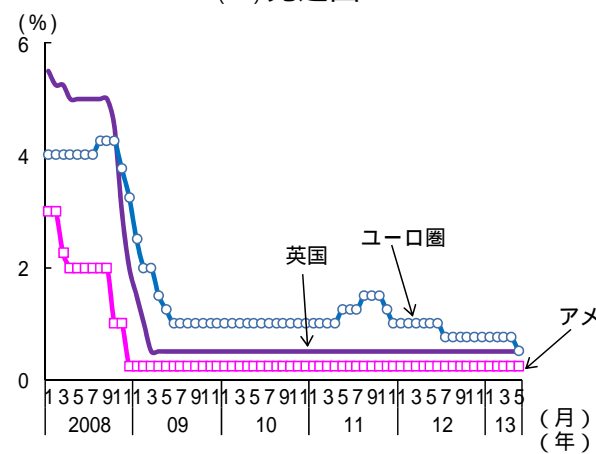


第7図 先進国為替レート

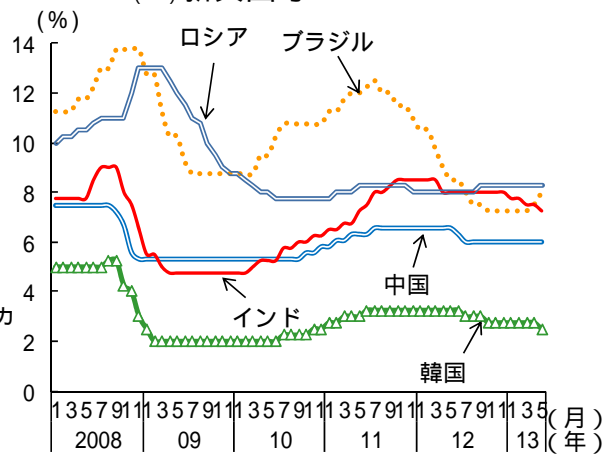


第6図 主要国の政策金利

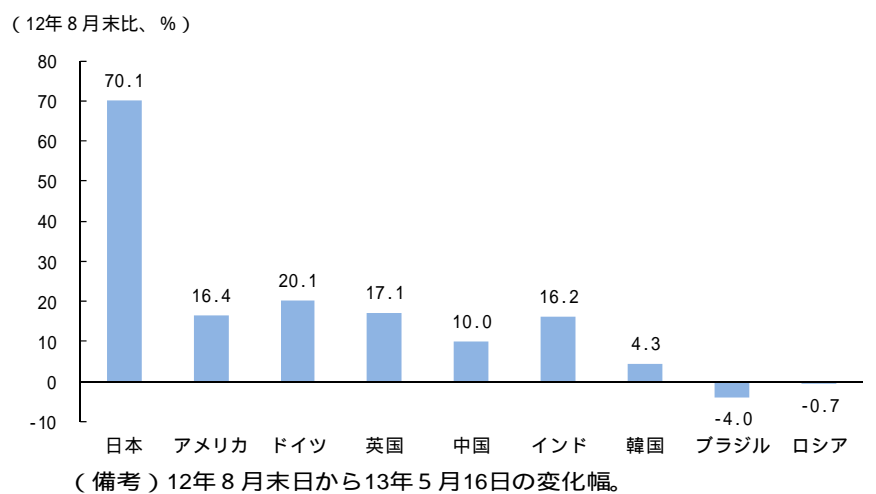
(1) 先進国



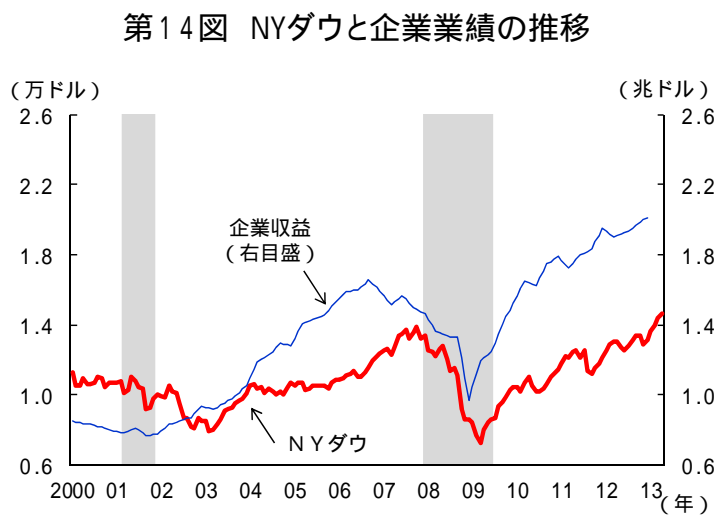
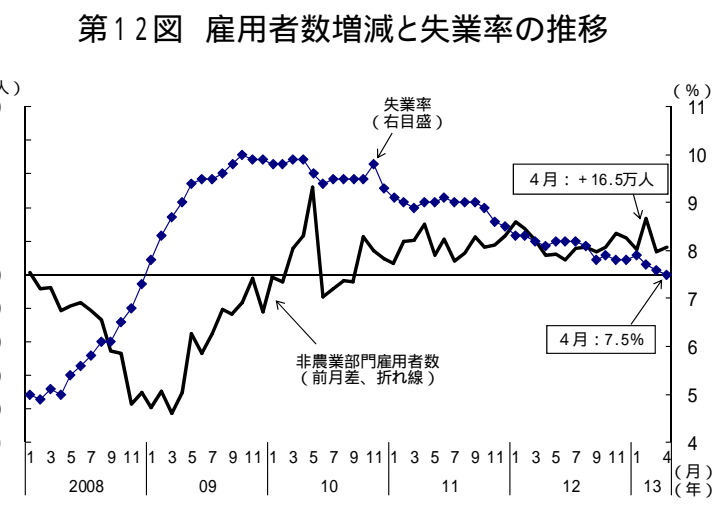
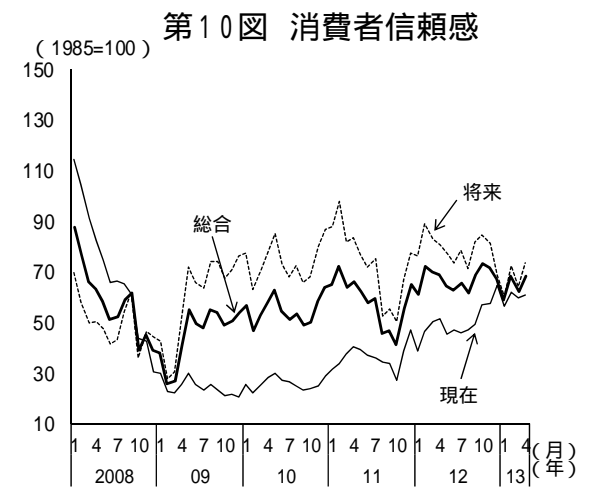
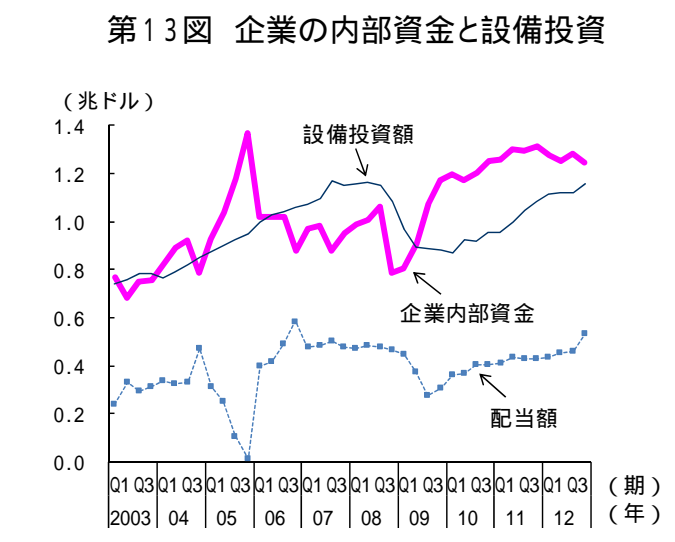
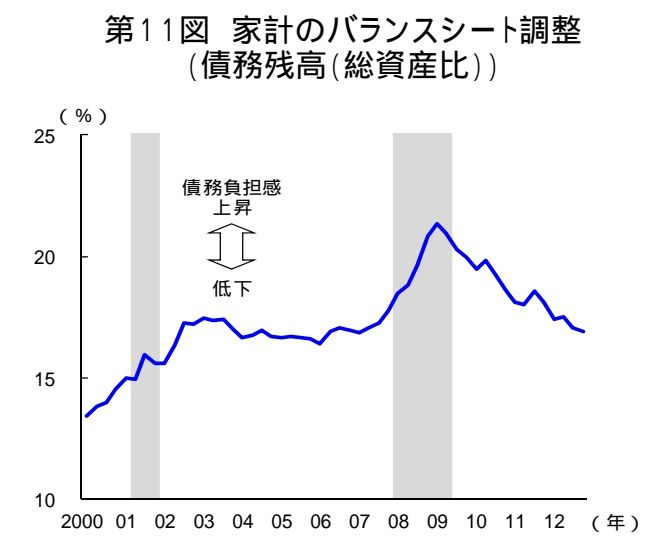
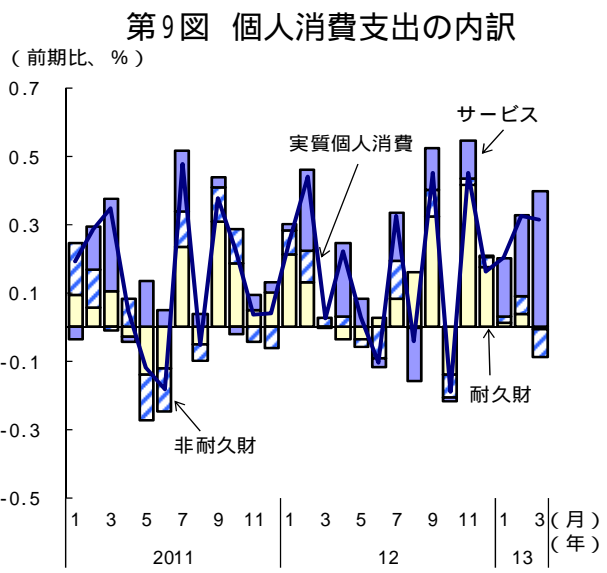
(2) 新興国等



第8図 主要国の株価:12年秋からの変動幅



- 消費は耐久財やサービスを中心に緩やかな増加傾向。(第9図)
- 背景には雇用環境改善の継続、株価、住宅価格の上昇等による家計のバランスシート調整の進展等。(第10~12図)
- 企業部門の設備投資に対する姿勢は依然として慎重だが、企業収益は好調で株価も史上最高値を更新。(第13~14図)



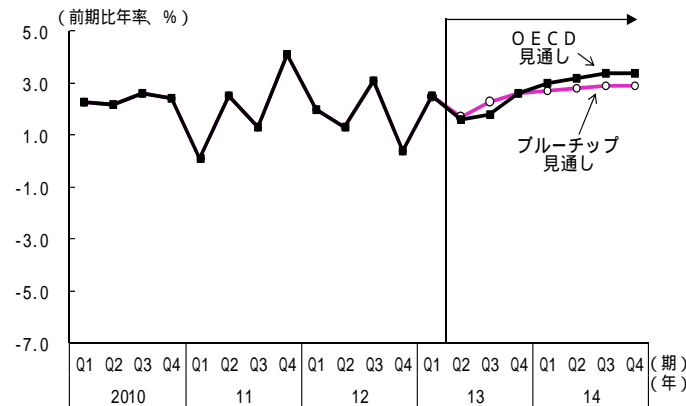
- 「財政の崖」のうち、ブッシュ減税等は回避されるも自動歳出削減開始。今後の景気への下押し圧力が残る。(第15~17図)
- 金融政策については、雇用(失業率6.5%)、物価(2%+0.5%以内)に対する数値基準導入。追加資産購入ペースや時期をめぐる動きに市場は注目。(第18~19図)

第15図 財政の崖の影響

		財政赤字削減額(億ドル)	名目GDP比(%)
		4,451 ¹⁾	2.8
「財政の崖」関連	給与税減税失効 ²⁾	950 (1,267< 0.8>)	1.6
	高所得者増税 ²⁾	270 (360< 0.2>)	
	自動歳出削減 ²⁾	640 (914< 0.6>)	

(備考) 1. 2013年度(2012年10月~13年9月)の財政赤字改善見込額全体。
 2. 議会予算局(CBO)等より作成。13年度の1月~9月分。
 ()内は半年ベースにしたもので >内は名目GDP比。

第17図 実質経済成長率の見通し

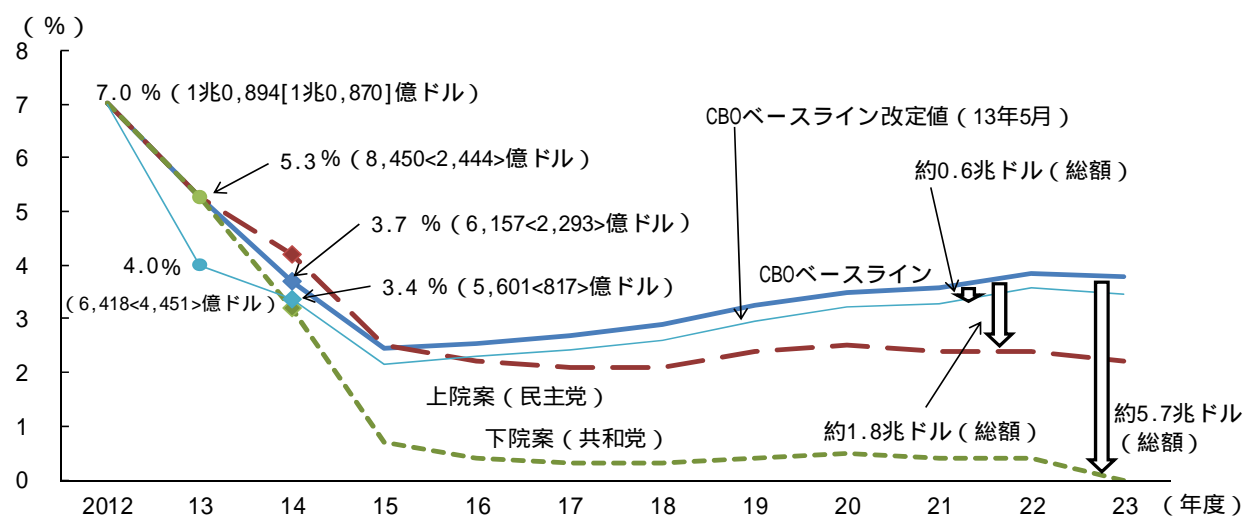


第18図 FEDの物価見通し

		13年	14年	15年	長期
PCE	今回見通し	1.3~1.7%	1.5~2.0%	1.7~2.0%	2.0%
	前回(12月)	(1.3~2.0%)	(1.5~2.0%)	(1.7~2.0%)	(2.0%)
コアPCE	今回見通し	1.5~1.6%	1.7~2.0%	1.8~2.1%	
	前回(12月)	(1.6~1.9%)	(1.6~2.0%)	(1.8~2.0%)	

(備考) 見通しで塗りつぶし部分は、前回の見通しから下方修正されたもの。

第16図 財政収支(赤字)のGDP比の推移



(注) 1. []内は予算教書での赤字額であり、< >内は前年からの財政改善額。
 2. はCBOのベースライン(13年2月)からの乖離であり、財政赤字削減額とは異なる。

第19図 資産買入れプログラムの規模縮小時期にかかるFOMC参加者のスタンス

